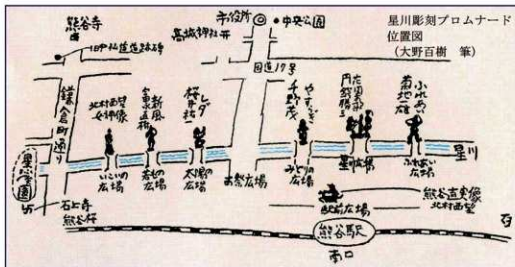


## 報告資料 星川ルネッサンス「星川彫刻プロムナード研究会」の発足について

熊谷市の市街地を流れる星川には7つの広場があり、一番上流にある「いこいの広場」には北村西望「戦災者慰霊の女神」が昭和50年(1975)、戦災30周年に建立された。熊谷駅前建立された北村西望「熊谷次郎直実像」とともに、星川を印象付ける彫刻通り(プロムナード)として文化芸術の顕彰を進めてきた。

昭和56年(1981)春に「星川に水と緑と芸術を、そしてメルヘンの道に」との願いで熊谷青年会議所などが発案し、市による彫刻像設置事業が決定した。以降、星川彫刻プロムナードが徐々に具現化されることになった。昭和57年(1982)、「太陽の広場」に桜井祐一「レダ」と「緑の広場」に千野茂「やすらぎ」の作品が設置され、大きな注目を集めた。

本年、「戦災者慰霊の女神」の建立から45年を経過し、星川彫刻プロムナードの継承が新たな課題となっている。この度、令和2年12月1日、星川彫刻プロムナード研究会を発足し、彫刻芸術を活かした中心地活性化や、戦災者慰霊のための「とうろう流し」の継続などの課題と向き合いながら、「星川ルネッサンス」をスローガンに、次世代に向けての新たな熊谷市モデルを構想する拠点としたい。



### 記者会見のご案内

日時 2020年(令和2)年12月3日(木)午前11時～

会場 園鋸勝三『花園の歌』彫刻前

(熊谷市筑波2丁目、熊谷駅通りと星川通りの交差点にある彫刻)

### 発起人

顧問 増田敏男(元熊谷市長・熊谷市名誉市民)

会長 藤間憲一(熊谷商工会議所名誉会頭)

事務局(研究員) 山下祐樹(熊谷市立江南文化財センター)

事務局連絡先: 090-1531-7218(山下)

画像:現在作成中の星川彫刻プロムナード解説版資料 A4サイズ両面カラー

(12月1日発行、近隣店舗などにおいて配布)



## 星川ルネッサンス 星川彫刻ブロムナード研究会の構想と展望

### 星川彫刻ブロムナード研究

1975年から1985年にかけて星川に設置された彫刻群は日本を代表する芸術家によって製作され、これらの彫刻を線として連結し星川彫刻ブロムナードが完成した。彫刻の存在に対する再認識を深めてもらうために解説資料を作成し、星川周辺の店舗等で配布を始めている。

また、国内における北村西望研究の拠点化を目指した上で、戦災慰霊と野外彫刻の歴史研究という観点から、ドイツ・フランクフルト大学社会研究所と共同研究を予定している。これらの研究と啓発を通じて、星川彫刻ブロムナードを世界的な文化発信拠点として位置付けられるよう取り組む。

#### 熊谷商工会議所・熊谷青年会議所との連携

：星川周辺の産業立地、店舗数の増加に向けた取り組み。

#### まちなかモール委員会との連携

：中心市街地活性化に向けた官民連携の取り組み。街なかイベントへの協力。

#### 「星川夜市」など星川発の魅力発信事業

：若手グループなどと連携し星川でのバザールが果たす役割の再認識と情報発信。

#### 「星川とろうろ流し」の継承に向けて

：北村西望「戦災者慰霊の女神」の顕彰と、「とろうろ流し」の継承に向けた取り組み。

#### 立正大学・地元子供会との連携

：星川を通じての地域おこし行事、星川の生物多様性について学ぶ機会の提供。

#### 新たな文化発信拠点としてのブロムナード構想

：星川を媒介とした長期的プランの策定。彫刻群の見学を目的とした国内外からの来場者促進を進める取り組み。最上流部の星溪園の活用。

### 星川ルネッサンス

：江戸時代中期から染色業などで栄えた星川は、戦前戦後を通じて多くの人々が行き交う生活拠点であり、商工業の交流拠点でもあった。そうした歴史に想いを馳せながら新たなモデルの確立と発信を目指す。

#### 発起人の概要

増田敏男（元熊谷市長・元厚生労働副大臣・熊谷市名誉市民 1929年（S4）4月20日、熊谷市生まれ）

星川彫刻ブロムナード構想の当時、熊谷市長（1982-1986）として銅像の購入設置を進めた。

藤間憲一（熊谷市観光協会会長・熊谷商工会議所名誉会頭 1946年（S21）1月30日、熊谷市生まれ）

北村西望「戦災者慰霊の女神」の顕彰と、熊谷空襲慰霊の「とろうろ流し」の運営。

山下祐樹（熊谷市立江南文化財センター 1982年（S57）11月21日、熊谷市生まれ）

北村西望をはじめとする熊谷地域の近現代彫刻の研究。解説資料「星川彫刻ブロムナード」作成。

現地彫刻解説会：2020年12月25日（金）午前11時（星川広場集合・筑波）～正午

解説者：熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

## 星川彫刻プロムナード研究会発足—星川の彫刻を発信する—

熊谷市の市街地中心を流れる星川に設置された彫刻群に対する再認識を深めてもらおうと、星川彫刻プロムナード研究会が発足した。

江戸時代中期から染色業などで栄えた星川は、戦前戦後を通じて多くの人々が行き交う生活拠点であり、商工業の交流拠点でもあった。戦後、直線に整備された星川には7つの広場があり、1975年、一番上流にある「いこいの広場」に、近代日本彫刻界を代表する北村西望の「戦災者慰霊の女神」が建立された。熊谷空襲戦災30年事業として平和への祈りが込められている。

1981年には、「星川に水と緑と芸術を、そしてメルヘンの道に」との構想に基づき、市による彫刻像設置事業が決定した。以降、1985年にかけて国内を代表する彫刻家の名作が次々と建立された。富永直樹「新風」、桜井祐一「レダ」、千野茂「やすらぎ」、闊鏑（えんつば）勝三「花園の歌」などの銅像が設置され、「星川彫刻プロムナード」として大きな注目を集めた。

研究会は当時の彫刻建立に関わった元熊谷市長の増田敏男さんや、星川で生まれ育った熊谷市観光協会会長の藤間憲一さんなどを発起人として発足。星川彫刻プロムナードの存在を改めて広く発信することを目的に活動を進めることになった。

昨年12月には、発足記念として彫刻の解説資料を作成し、星川周辺の店舗などで配布を始めたほか、12月25日には彫刻プロムナードを散策する現地解説会を開催した。

今後は、熊谷を北村西望の研究拠点とするとともに、戦災慰霊と野外彫刻の歴史研究という観点から、ドイツ・フランクフルト大学社会研究所と共同研究を計画している。解説資料の作成を担当した熊谷市立江南文化財センターの山下祐樹主任（学芸員）は、「研究と啓発を通じて、星川彫刻プロムナードを世界的な文化発信拠点として位置付けられるよう取り組みたい」と意気込む。

研究会では、熊谷商工会議所と熊谷青年会議所、まちなかモール委員会、「星川夜市」実行委員会、立正大学などと連携を図りながら、彫刻芸術を活かした中心地活性化や、戦災者慰霊のための「とうろう流し」の継続などの課題と向き合う予定だ。

また、本年1月から3月にかけて星川の彫刻群を動画で撮影し、映像記録として「熊谷デジタルミュージアム」などで公開するプロジェクトを進めている。星川の歴史と彫刻群を次世代に引き継ぐための取り組みが始まっている。（報告：熊谷市文化遺産研究会）



闊鏑勝三「花園の歌」を前にした発起人、藤間憲一会長（左から）、増田敏男顧問、山下祐樹研究員



研究会結成についての記者会見（2020年12月3日）



星川彫刻の現地解説会（2020年12月25日） 解説者：熊谷市立江南文化財センター山下祐樹



富永直樹「新風」 北村西望「戦災者慰霊の女神」



発足記念に刊行した彫刻解説資料

## 熊谷・星川沿いの彫刻群

## 「文化の発信地に」

商議所有志ら、研究会発足

熊谷市内を流れる星川のほとりに建つ彫刻群と景観に目を向け、文化の発信地として盛り上げるための「星川彫刻プロムナード研究会」(会長＝藤間憲一熊谷市観光協会会長)が発足した。毎夏、星川で行われてきた戦災犠牲者慰霊の「灯籠流し」を次代に受け継ぐことにも取り組む。

JR熊谷駅近くの市街地を流れる星川周辺は、熊谷空襲で大きな被害を受けた。戦後の復興計画で都市公園として整備され、戦災犠牲者慰霊の「灯籠流し」なども行われてきた。

彫刻プロムナードは1975年に彫刻家・北村西望による「戦災者慰霊の女神像」が建ったことをきっかけ

星川彫刻プロムナード研究会を設立した(左から)藤間憲一会長、顧問の増田敏男・元熊谷市長、山下祐樹・市立江南文化財センター主任、熊谷市で



に、星川沿いに彫刻を建てようと熊谷青年会議所などが発案し、市が設置した。岡鏗勝

三や北村西望の弟子・富永直樹など著名な作家の作品が並び、85

年までに女神像も含めて7作品が建てられた。

研究会は、熊谷青年会議所や熊谷商工会議所の有志らが参加し、市内の商店などで組織

する「まちなかモール委員会」などと連携する。市立江南文化財センターの山下祐樹主任が事務局を務め、戦災慰霊と野外彫刻の歴史として、ドイツ・フランクフルト大学社会研究所との共同研究も始める予定。

3日に記者会見した藤間会長は「私も星川で遊んで育った。今は人通りも少ないが、原点に戻って集いの場としたい」と話した。活動の第一弾として彫刻を鑑賞しながら星川を歩く解説会を25日に開く。同市筑波の星川広場集合で午前11時から。申し込み不要。問い合わせは江南文化財センター(048・536・5062)。

【岡礼子】

星川彫刻プロムナード研究会の発起人の(左から)藤間さん、増田さん、市立江南文化財センターの山下祐樹学芸員一熊谷市の星川広場

## 熊谷・プロムナード研発足

# 彫刻生かし中心地活性化

熊谷市の中心市街地を流れる星川沿いに配置されている彫刻群を真直し、彫刻芸術を活かした中心地活性化に取り組み星川彫刻プロムナード研究会(会長・藤間憲 熊谷観光協会会長)が発足した。発起人で元熊谷市長の増田敏男さん(91)らが発表した。活動の第一弾として26日、星川を歩きながらの彫刻解説会を実施する。(若狭毅)

星川には七つの広場がある。最も上流の「いこいの広場」には彫刻家、北村西望作の「戦災者慰霊の女神」。戦災50周年の1975年に建立されたものだ。

前年の74年、熊谷駅北口に建



## きょう星川で散策解説会

てられた同じ作者の熊谷次郎置実像とともに、星川が彫刻通り(プロムナード)として広く知られるきっかけになったという。

81年には、熊谷青年会議所などの発案で、彫刻像設置事業が決定。「星川に水と緑と芸術を、そしてメルヘンの道に」との思いが動き出した。82年には「太陽の広場」に桜井祐一「レタ」、  
「緑の広場」には千野茂「やすらぎ」が設置される。83年には星川広場に「花園の歌」が置かれるなど、85年にかけて星川周辺には日本を代表する芸術家の作品が次々建てられ、プロムナードとしての体裁が整っていった。

かつてほどのにきわいがなくなつて久しいプロムナード。研究会では、彫刻の存在に対する再認識を深めてもらうための解説資料を作成し、星川周辺店舗での配布を始めた。

解説会は午前11時、熊谷駅通り沿いの星川広場に集合。申し込みは不要。

問い合わせは市立江南文化財センター(☎048・5336・5062)へ。

